

# 日本クーベルタン委員会通信 (公開版)

第4号 2026年1月26日

事務局：〒438-0043 静岡県磐田市大原 1572 番地 1

編集・発行

静岡産業大学スポーツ科学部スポーツ科学科 和所泰史 気付

日本ピエール・ド・クーベルタン委員会

## 巻頭言

コロナ禍を経て、2024年3月に再出発を果たした日本ピエール・ド・クーベルタン委員会 (CJPC) は、まもなく3年目を迎えます。情報発信と会員間の交流を担う媒体として同年11月に創刊された『CJPC 通信』も、今号で第4号となりました。今号では、2025年11月に開催された「日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム 2025」の報告をはじめ、「回想・パリ 2024」、「IOC 新会長コベントリー体制スタート」を掲載しています。脇田編集委員をはじめ、寄稿いただきました会員各位に、心より感謝申し上げます。

さて、日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラムの開催は、その前身となる JOA (日本オリンピック・アカデミー) ユースセッションを含めると、2025年で11回目を数えることとなりました(第1~第7回は JOA ユースセッション、第8回以降が CJPC ユースフォーラム)。これまでにユース世代のアスリートも数多く参加してくれています。そのひとり、小林未奈選手 (フォルティウス所属/2019年 JOA ユースセッション参加) が、このたび CJPC ユースフォーラム参加者として初めて、ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックのカーリング日本代表に選出されました。ユース世代への教育を CJPC が大切にしている意味のひとつは、まさにここにあるといえます。

オリンピックは、世界中の人々がスポーツや文化的な活動を通じて交流し、異なる価値観に触れ合い、互いを認め合う機会を創出し、共に生きる社会を実現するための教育的で国際的なムーブメントです。その理念やムーブメントの現状を学んだユースアスリートたちが、シニアアスリートとなってオリンピックの舞台に立つ。その輪が世界中へと広がり、繋がっていくことで、オリンピックは単にメダルを争う場にとどまらず、それを越えて互いを理解し、認め合う場としての本来の姿を発揮し得ると考えています。そして何より、このフォーラムに参加した多くの高校生や大学生が、世界が抱える社会課題の解決と、自他がより良く生きる未来のために、オリンピックやスポーツを通じて何ができるのかを考え、日々の生活の中で実践していくことが重要です。

2025年11月19日、国連総会においてミラノ・コルティナ冬季オリンピック期間中の「休戦宣言」が決議されました。しかし、宣言期間中であっても世界各地では戦禍が絶えず、多くの犠牲者が生まれています。そうした状況の中、コベントリー体制で臨む最初の大会が2026年2月6日に開幕します。ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックは、いかなる大会となり、世界に対し何を示せるのでしょうか。自らの極限に挑むアスリートたちの姿は、勝敗や争いを越えて「共に生きる」ことの尊さを私たちに改めて問いかけるはずです。

最後になりましたが、2026年もどうぞよろしくお願いいたします。

(木村華織)

## 日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム 2025 報告

日本クーベルタン委員会副委員長・NPO サロン 2002 理事長 中塚義実

CJPC の主要行事である標記フォーラムが 11 月 8 日(土)~9 日(日)、オンラインと対面を併用して開かれた。近年は 12 月末の開催が多かったが、参加者、スタッフともに年末は厳しいとの声があり、時期移動を試みた。国際 YF 再開の動きもあるようだが、まずは今年度の概要を報告したい。

### ◆日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム(国内 YF) 2025 の実際

11 月開催なので夏休み前には告知と募集を開始したい。5 月ごろから関係者間で準備を進め、6 月初旬には今年度のテーマを「エクセレンス〜いまの自分を乗り越える」と定め、登壇者と内容の調整を進めた。6 月 30 日に告知と募集を開始し、7 月末日を締切日としたが、夏休み前で各学校とも告知と募集に苦慮されたようである。9 月末日まで募集期間を延長し、高校生 18 名、大学生 4 名の参加が確定した。実際は体調不良等による欠席があったが、初日はオンライン、二日目は中京大学と筑波大学附属高校で対面とオンラインを併用して実施した。

主催 日本ピエール・ド・クーベルタン委員会 (CJPC)

共催 特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー (JOA)

後援 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)

主管 筑波大学オリンピック研究教育センター (CORE)、中京大学、特定非営利活動法人サロン 2002

協力 東海学園大学スポーツ健康科学部、一般社団法人 A-GOAL

期日 2025 年 11 月 8 日(土)、9 日(日)

対面会場 関東地区:筑波大学附属高等学校・桐陰会館(東京都文京区大塚 1-9-1)

中部地区:中京大学 豊田キャンパス(愛知県豊田市貝津町床立 101)

全体テーマ エクセレンス〜いまの自分を乗り越える

<参加者 計 22 名>

・高校生 18 名

筑波大学附属高等学校(2)、自由学園高等部(4)、国士舘高等学校(3)、郁文館高等学校(1)

椋山女学園高等学校(3)、名古屋大学教育学部附属高校(5)

・大学生 4 名

清和大学(1)、国際武道大学(2)、筑波大学大学院(1)

<プログラムとスケジュール>

第 1 日 11 月 8 日(土) オンライン

9:00~10:00 オープニング/オリエンテーション(田原淳子、中塚義実)

10:10~11:00 講義① 嘉納治五郎とオリンピックムーブメント(大林太朗)

11:10~12:00 講義② クーベルタンのオリピズム(和田浩一)※オンデマンド配信

13:00~14:00 講義③ オリンピアンからみた「エクセレンス」(鶴岡剣太郎)

14:30~17:00 演習① 中京大学スポーツミュージアム活動(富田幸祐)

第2日 11月9日(日) 対面(オンライン併用)

9:00~9:15 諸連絡等

9:15~12:00 演習② Olympic Values Education Programme (OVEP) でエクセレンスを学ぶ

—講義・グループ討議・発表(宮崎明世)

13:00~14:00 講義④ アフリカからみた「エクセレンス」

—A-Goal プロジェクトの取り組み(岸卓巨)

14:20~16:20 運動プログラム:ボッチャ対抗戦(山田恵子、中塚義実、木村華織)

16:25~17:00 クロージング(田原淳子、來田享子、中塚義実)

◆参加生徒のコメント

・初日の感想:生徒(名古屋大学教育学部附属高校1年)

オリンピックについての基本的なことから発展的なことまで教えていただけて、深く知れました。エクセレンスについては少し難しかったけれど、でも理解できました。本当に多くの自分にはない感覚が送られてきて、刺激的な一日でした。クーベルタンと嘉納治五郎に共通することは、信念を貫き通すところにあるのかなと思いました。彼らを知ることによって見えるオリンピックはこれまでとは違い、華々しい栄光だけではなく、その裏にある選手それぞれの努力に目が向けられると思いました。オリンピックの鶴岡さんのお話では自分についてよく考えさせられました。これはスポーツにおいてとても大切なことで、考えてみると意外と自分を知らないんだなということに気付かされました。鳥の目、魚の目、コウモリの目という視点はとても刺激的でこれからも実践していきたいと思いました。中京大学のスポーツミュージアムではオリンピックの光と影という展示があったのが気になりました。また記念メダルなど各大会、各選手にまつわるものが多く展示されており、いつかまたゆっくり見てみたいと思いました。お話を聞くだけでなく実際に目にしてみるとまた違ったことが見えてくると思うので、機会があれば行ってみたいです。とてもたくさんの刺激的で興味深い話が聞けて有意義でした。ありがとうございました。

・2日目の感想:生徒(郁文館高校1年)

2日目は対面だった。私は一人で参加していたため、知っている人がいなく、仲間に入れてもらえるか不安だったが、先生方や他校の高校生、大学生の方々がとても優しく接して下さったおかげで、安心してとても良い学びの時間をおくることができた。ありがとうございました。対面で会うことで、1日目よりも意見や疑問を気軽にディスカッションしやすくなり、お互いの表情や相槌も見ることができたので、「やっぱり対面の方がいいな」と感じた。ほかに、直接顔を合わせることで、コミュニケーションがより深くなり、理解も進んだように感じた。講演については、今日は昨日より学びの幅が一層深まったと感じた。スポーツの持つ魅力やオリンピックについて、また、A-Goal プロジェクトの活動など、この貴重な経験を高校時代に学ぶことができ、本当に良かったと感じた。なかでも Zoom を通じてケニアの方々とお話してきたことは、とても貴重な体験だった。普段の生活では直接お話をうかがうことはもちろん、お目にかかることができないケニアの市場など、ケニアの現状やそこで生活する人々がどのような取り組みをしているのかを知ることができたのは、今回のような講演があったからこそだと強く感じた。そして、実際に現地の人々の声を聴くことができたことは、私にとって大きな学びとなった様に思っている。大学生や大人になった時は、自分で現地の人と直接会話をし、その時できることをお手伝いしたいと思った。スポーツが世界をつなぐという事実、スポーツの持つ魅力を体感でき、とても充実した一日だった。

◆初日のオンライン交流の様子



◆2日目の OVEP 講義の様子 (中京会場)



◆2日目のボッチャ交流の様子 (東京会場)



◆オンラインでつないで全員集合 (中京会場と東京会場)



◆今後に向けて

2015年3月に筑波大学で開催された「クーベルタン・嘉納ユースフォーラム」を起点とするこの事業も、10年が経過した。東京オリンピック・パラリンピックへ向けての「オリパラ教育」は、スポーツ庁の事業として多くの地域で取り組まれたが、大会後の実施については不透明である。TOKYO2020の「レガシー」として、「スポーツ教育」「平和教育」のすがたを示す場として、CJPCが主体的に取り組むことに大きな意義があると考えます。

10年を経過した現時点での評価と今後の課題を提示して本報告を終えたい。

- ・国内の高校生、大学生向けのユースフォーラムは重要。長年の積み重ねにより、内容も充実（参加者の満足度も高い）。今後もCJPCの中核事業として取り組みたい。
- ・オリンピック教育のさらなる定着・拡充を！ネットワークを広げ、各地との連携を！
- ・CIPCの動向を見据えつつ、国際的な広がりをも！国際YF派遣生徒選考の場として、あるいはアジアYFの開催へ向けて、できることを模索していきたい。

(文責:中塚義実)

## 「回想・パリ 2024」(第3回)

会員の皆様による寄稿で2024年パリ五輪について振り返る本シリーズ。今回は、五輪史上初めて参加選手が男女同数になったパリ・オリンピックの開会式で、フランスの歴史を作ったとされる10人の先駆的な女性の黄金像がセヌ川から登場した意味と背景を考える。

### 「パリ・オリンピック開会式のレガシーが提起した課題

#### —10人の女性の彫像がもたらした感動と『クーベルタンの罫』—

建石真公子 (法政大学)

芸術監督トマ・ジョリー (Thomas Jolly) が演出した2024年パリ・オリンピックの開会式は、驚きに満ちたものでした。彼は、俳優であると同時に、劇団ラ・ピッコリア・ファミリアの芸術監督を初め、いくつもの演劇やオペラの芸術監督として、古典的な作品の現代的で斬新な解釈で知られています。

そのような彼の感性は、開会式における「パトス(感情)」を重視するピエール・ド・クーベルタンの意図を継承しつつ、卓越した歌手たち、キャットウォークとドラァグクィーン・ショー、銀の馬、パリの屋根の上を走るマスクをした聖火ランナーなどにより、オリンピックの始まりを、観客の心を揺さぶる神秘的で物語に満ちたものとして印象づけました。

また、世界中に放送されたこの大スペクタクルは (IOCのサイトによると、世界中で50億人が視聴したそうです)、同時にフランスの偉大な女性たちに敬意を表する機会ともなりました。というのは、開会式の中盤、中世から現代までの女性の権利の主張という意味でフランスの歴史に足跡を残した10人の偉大な女性を称えるため、ジョリーは彼女たちを黄金の像として造形しセヌ川から湧き上がるように配置したからです。

オペラ歌手、アクセル・サン＝シエル (Axelle Saint-Ciel) の歌うフランス国歌「ラ・マルセイーズ」がグラン・パレ (1900年パリ万博のために建設された歴史的建造物で、大改修を経てパリ・オリンピックではフェンシングやテコンドーの競技会場となりました) の屋根から響き渡るなか、国民議会 (フランス下院) のすぐ近く、セヌ川から10体の女性像が「sororité (シスターフッド)」と題された作品として立ち上がった光

景は、オリンピズムの原則である尊厳と平等を印象的に示した場面と言えるでしょう。

これらの「黄金の女性たち」を年代順に簡単に紹介すると、クリスチヌ・ド・ピザン (Christine de Pizan, 1364-1430) は、学識で知られる哲学者兼詩人。代表作『女性の都市』は、フェミニズム文学の初期の代表作の一つとされています。ジャンヌ・バレ (Jeanne Barret, 1740-1807) は、探検家兼植物学者で、世界で初めて世界一周を成し遂げた女性です。多くの植物の同定に貢献しました。オランブ・ド・グージュ (Olympe de Gouges, 1748-1793) は、文筆家兼政治家で、フランスにおけるフェミニズムの先駆者であり、フランス革命後、1789 年人権宣言が男性の権利保護であるとの批判から、1792 年に『女性と市民の権利宣言』を起草しました。しかしそのため、翌 1793 年には断頭台で処刑されてしまいました。ルイーゼ・ミシェル (Louise Michel, 1830-1905) は、教師、作家、アナキスト活動家で、パリ・コムン (1870 年) におけるフェミニストを象徴する女性です。アリス・ギイ (Alice Guy, 1873-1968) は、世界初の女性映画監督、脚本家、プロデューサーで、映画史上初のフィクション映画を制作した人物として知られています。アリス・ミリヤ (Alice Milliat, 1884-1957) は、水泳、ホッケー、ボートの選手で、国際的な女性スポーツの認知に多大な貢献をし、特に女性オリンピック大会を実施した国際女性スポーツ連盟の創始者として有名です。ポーレット・ナルダル (Paulette Nardal, 1896-1985) は、マルチニック出身の文学者、ジャーナリスト、黒人運動の活動家です。1930 年代にフランス領植民地で行われた「黒人性 (Négritude-ネグリチュード)」を肯定し黒人固有の文化と尊厳を称揚するという文化・政治運動であるネグリチュード運動をもたらした人物の一人です。彼女はまた、ソルボンヌ大学で学んだ最初の黒人女性でした。シモーヌ・ド・ボーヴォワール (Simone de Beauvoir, 1908-1986) は、文学者で、『第二の性』の著者。1970 年代のフェミニズムと女性解放を牽引した重要な理論家として知られています。シモーヌ・ベイユ (Simone Veil, 1927-2017) は裁判官兼政治家で、アウシュヴィッツの生存者です。保健大臣に任命され、1975 年の人工妊娠中絶を非犯罪化する人工妊娠中絶法の制定を実現し、その後もフランスにおける女性差別と長年闘いました。ジゼル・アリミ (Gisèle Halimi, 1927-2020) は、弁護士、フェミニスト活動家、政治家で、戦争犯罪と植民地主義に反対し、女性の権利を擁護する活動家として知られています。アルジェリアの独立運動家や違法中絶の容疑で起訴された女性たちの弁護を担当し、強姦を犯罪として認める法律の制定に貢献しました。

これらの 10 人の彫像は、オリンピック大会後もしばらく国民議会で市民に公開されていましたが、その後、パリ市内の公共の場に永久に設置されることになりました。パリ五輪組織委員会によると、パリでは街中の彫刻のほとんどが男性で、男性像が 260 体に対し女性像は 40 体にすぎないそうです。それを踏まえ、パリ市長アンヌ・イダルゴ (Anne Hidalgo) 氏が、パリ 18 区のラ・シャペル通り (rue de la Chapelle) 沿いに 10 人の彫像を設置し、パリ市への入口の一つであるラ・シャペル門を、イダルゴ氏の言葉によると「首都の最も美しい入り口」としたのです。パリ・オリンピックのレガシーのひとつとして、女性の権利のために活動した 10 人の女性像、すなわちその功績が、パリ市に永く残り続けることになりました。

特にオリンピックとの関係では、アリス・ミリヤが開会式で賞賛されたことには感慨深いものがあります。なぜならミリヤは、初期のオリンピック大会が女性の参加を制限して男性中心だったことに反旗を翻し、女性だけのスポーツ国際大会を 4 回開催したからです (1926~1934)。

この女性スポーツ大会開催の背景には、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、クーベルタンが政治的に中立なスポーツを推進すると表明していたにもかかわらず、彼の個人的な思想を反映した国際オリッピ

ク委員会 (IOC) とオリンピック大会では、女性や植民地が排除されていたという事実があります。これについては、中立性を標榜しながら西洋(男性)中心主義に染まったものとして、「クーベルタンの罫」と皮肉的に言われています (Lucas Auban, *De l'athlète à la nation : vers une nouvelle géopolitique du sport*, Pouvoir, no.189.)。

2024 年の第 33 回パリ大会では参加選手の半数までが女性になりました。1896 年にアテネで開催された第 1 回のオリンピック大会から 128 年、実に長い年月が必要でした。

「非政治も政治」という指摘 (Jacques Defrance, « La politique de l'apolitisme. Sur l'autonomisation du champ sportif », *Politix*, n° 50.) も含め、「クーベルタンの罫」なのか、あるいは単なる時代の制約だったのか、オリンピックの価値を考える上で、今後も問いかけていかなければならない課題です。



ラ・シャペル通りに立つアリス・ミリア(右)とオランプ・ド・グージュの像(左)

(パリ市 HP より <https://www.paris.fr/pages/dix-femmes-mises-a-l-honneur-sur-la-rue-de-la-chapelle-31744>)

## コベントリー体制スタート

国際オリンピック委員会 (IOC) を 2 期 12 年率いたトーマス・バッハ氏 (ドイツ) が昨 2025 年 6 月に退任し、後任として、競泳の五輪金メダリスト、カースティ・コベントリー第 10 代会長 (ジンバブエ) が就任した。IOC 史上初の女性トップ、初のアフリカ出身の会長として、2 月のミラノ・コルティナ冬季五輪を迎える。

### 131 年目の多様性の風 ～コベントリーIOC 会長のリーダーシップ

結城 和香子 (読売新聞社編集委員室記者)

国際オリンピック委員会 (IOC) に、131 年の歴史で初となる女性会長が誕生してから半年以上が経った。ジンバブエ出身の五輪競泳金メダリスト、カースティ・コベントリー氏の会長選出は、トーマス・バッハ前会長の後押しや、多くの女性 IOC 委員の支持によって実現したものだ。当時 41 歳と候補中最年少でもあり、「ガラスの天井」を砕く多様性の象徴として持ち上げられながら、実務の手腕は未知数と評されてきた。今、そのリーダーとしての信条や特徴が徐々に見えてきている。

象徴的なできごとがある。IOC が昨 2025 年 10 月 22 日に発表した、インドネシアへの制裁だ。

インドネシア政府は、同月ジャカルタで開かれた体操の世界選手権で、イスラエルの選手にビザ発給を拒否する方針を明らかにしていた。イスラム教徒が国民の9割近くを占めるインドネシアは、歴史的にイスラエルと国交がなく、その軍事行動に対する批判や抗議が国内で高まっていたことが理由だった。

国際体操連盟の管轄大会だが、これにIOCが反応した。コベントリー氏率いる理事会は、インドネシア政府が今後の(イスラエルを含む)選手参加について納得のいく保証を提示するまでは、各国際競技連盟に対し、同国で国際大会を開かないように勧告。IOCとしても「インドネシア五輪委との五輪等の開催に向けた対話を停止する」と表明した。インドネシアは2036年夏季五輪招致への関心を表明しており、政府にとって最も痛手となり得る制裁を課したといえる。動きは、やはり人口の95%以上がイスラム教徒とされるセネガルなど、今後ユース五輪や五輪を開催する国々に対する「警告」でもありそうだ。

コベントリー氏は、会長就任時のスピーチで、娘が庭で見つけた蜘蛛の巣を例に取り、「1か所が破れると途端に強度が弱くなる。それは我々の五輪運動も同じ」と語った。一方で、9月にオリンピズムの基本原則を守るための作業部会を設置した際、その理由として世界にあふれる戦禍と犠牲者の存在を嘆き、「スポーツは、世界を一つにする希望の灯であり続けるべきだ」と強調するなど、真っ直ぐな理念を信条とする一面がある。元選手、そして母として、選手や次世代の子どもたち、五輪運動を守る——。そんな思いが時として、強い制裁さえ打ち出す決断力となって表れるのかもしれない。

前会長のバツハ氏は、2025年5月、退任直前のインタビューで、コベントリー(次期)会長に求める資質を聞いた時、「五輪運動のリーダーシップは価値観に基づく必要がある。でも彼女は、すでにそれを備えている」と応じていた。分断の深まる国際社会の波と政治の圧力に、コベントリー体制がどう挑むのかを見守りたい。

## 会費の納入について

会費が未納の方は、会費3,000円の納入をお願いします。また、ホームページの作成を行うため、寄付金105,000円を募っています。ご協力のほどお願いいたします。なお、領収書が必要な場合は宛名と郵送先を事務局までお知らせください。連絡先:事務局 和所泰史 [メール y-washo@ssu.ac.jp](mailto:y-washo@ssu.ac.jp)

銀行名：三菱 UFJ 銀行

支 店：豊田支店(店番 404)

預金種目：普通

口座番号：0831133

口座名：日本ピエール・ド・クーベルタン委員会 委員長 田原淳子

## 入会のご案内

日本ピエール・ド・クーベルタン委員会への入会を希望される方には、こちらの入会フォームまたは事務局までご連絡ください(事務局長 和所泰史)。



<https://forms.gle/MAM4PdLAPmRLjQpe6>

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSevhaUCx-5SaeuIokU0HYm4EpIICTb8hO+tvZN8IV6TDdgthzg/viewform?usp=dialog>

## お知らせ

次(第5)号では、「総会報告」「2026 年ミラノ・コルティナダンペッツォ冬季大会の報告」「回想・パリ 2024(最終回)」「IOC パリ 2024 最終報告書を読み解く」「ピエスチャニ・クーベルタン学校の活動紹介」などを予定しております。

連絡先：事務局 和所泰史